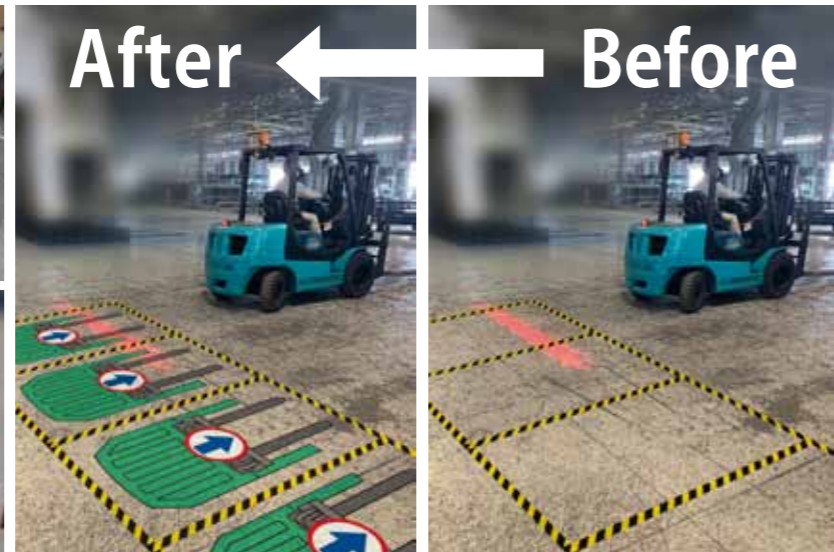




# 働きやすい安全な職場づくりは ひとめでわかる〈注意喚起表示用サイン〉で解決！

「働きやすい、安全な職場づくり」を可能にする画期的な印刷制作システムを〈株式会社アイエヌジー〉が開発。危険な場所で何をしたらいけないか？安全を確保するためには、どう動けばいいのか？これまでの「単色・ラインテープ」での注意喚起表示を一新。「フルカラー・オリジナルデザイン、オリジナルサイズ」で、ひとめで理解できる『見える化サイン』が安全対策問題を解決する。



100%  
見える化



## 荷役現場の事故防止に有効な対策はあるのか？

最近5年間で増加傾向にあるといわれる、陸上貨物運送事業の労働災害。中でも荷役作業での労働災害は毎年1万件近くも発生している。また令和2年度の全国火災件数は19,365件、工場/倉庫では2,081件発生し、315名の方が負傷されている。(消防防災情報室)

これら災害や事故を防止するために、多くの物流倉庫や工場ではそれぞれ安全のための対策として、防災訓練、社内メールや朝礼などでの注意喚起、事故報告の張り出しなどが行われている。しかし、現場の状況は刻々と変わるため、安全対策のためのルールを周知徹底させることが難しいのが現状だ。

実際に昨年末に大阪で発生した火災後に、5万平米以上の面積を持つ企業23事業所への消防隊の緊急立入検査が実施された。結果を見ると94件不備があり、その内57件が「避難口や通路に置かれた配送商品等が避難の障害となっている」。

防火シャッターの降下位置に置かれた配送商品等が閉鎖の障害となっている。  
\*不備指摘は、『全て是正済み。』と報告されている。(大阪市HPより)

避難経路、リフトが集中する交差点、プラトホーム周辺、倉庫や工場の出入口など、事故が起こりやすい場所は、倉庫内のあちらこちら

来。倉庫や工場内の安全を守るため修理に手間や労力をかけ続け、挙げ句の果てには放置状態になることも多いという。このような現場で、もし事故が起きてしまった場合、本場に「安全対策をしていた」と言いきれるのか。職場で起こりうる身近な事故・ヒヤリハットは、「伝わらない現場のルール表記」にも潜んでいる。

- ・荷物を置いてはいけない場所でパレットや箱などが放置され、スムーズに通れない。ドアが開閉しない。
- ・フォークリフトが集中する、プラトホーム、交差点、防火シャッター下などでルールが守られず発生するさまざまな事故。
- ・使用した台車、ハンドリフト、パレットを元の場所に正確に格納しないために発生する、作業効率の低下やつまづき事故。

これらの案件が積み重なることで、いつか大きな事故を招きかねない。「誰もが」「ひとめでわかる」注意喚起サインができないか。そんな相談から開発がスタート。

「出来そうで出来なかった」印刷を可能にした〈株式会社アイエヌジー〉。ヘルメットやアルミ製品など、これまで直接印刷ができなかった製品への印刷を可能にした高度な転写印刷技術を応用した「注意喚起表示用サイン」が誕生した。

写真はEC最大手企業の荷物を扱う物流拠点に導入された注意喚起表示用サインだ。こ

ちらに点在する。「事故0」を目指し、ルールの徹底、指差し確認、機材の点検や整備など、あらゆる対策が講じられてはいるものの、その成果はいかがなものか。

火災現場の報告を見る限り、効果的な対策が行われているとは思えない。ほとんどの現場で行われている事故対策は、床にラインテープや塗装などで危険な場所を表示し、注意を促す。ところが、このサイン。誰が見てもわかるか、というところでもない。

例えば、目の前にトラテープが貼られているとしよう。注意が必要なのはわかるが、人が入ってはいけない場所なのか、荷物を置いてはいけない場所なのか。

「なぜ、どのように危険なのか」という肝心のポイントが、すぐには判断がつかない。さらに、長年使用していることでテープが捲れている、塗装が剥がれてくるなど、床面は汚れていく一方だ。長年働くスタッフにはわかることでも、新しく入った人や日本語が苦手な外国人、倉庫見学に来た荷主さんなどには何のことかは伝わらないだろう。

## 剥がれない、消えない 誰もがわかる危険サイン

注意喚起のサインが必要な場所では人やリフト・車などの往来が多いため、ラインテープの貼り替え・塗装の直しなどを、作業の間を見ても2〜3カ月ごとに行われれば上出

の場所では、『物を置かない』『減速せよ』というルールがあるという。

日頃から、現場管理者から注意を促すが、物量が増えるると一旦置いてしまうというような事が発生する。

そこで、当初貼られていた、トラテープを剥がし8M×2Mサイズの注意喚起用表示サインを導入したところサイン上には物を一切置かなくなり、ルールが守られているという。まさに一目でわかる注意喚起サインではないだろうか。

## 「スマート施工」を実現

特筆すべきは、施工のための大掛かりな道具が不要なため、場所をとらず転写作業は非常にスマートということだ。例えば、防火シャッター下幅8m×2mサイズであれば、2時間ほどで施工が完成する。しかも、役目を終えたサインを剥がすことも簡単。跡も残らず綺麗に剥がせる。

このスマートペーパーによる転写印刷は、注意喚起のサインはもちろん、AGV(無人搬送ロボット)用の磁気テープガイドやバーコード、さらには避難誘導用のガイドラインにと、さまざまな使い道が考えられる。

荷役現場の安心・安全を守る「見える化サイン」で、「倉庫・工場内の安全レベルは問題無い」、そう自信を持って答えられるためには必須のアイテムとなろう。

